

2015年5月14日
東日本旅客鉄道株式会社

リゾートしらかみ「樺(ブナ)」の車両新造について

- JR東日本では、「グループ経営構想 V(ファイブ)～限りなき前進～」において、観光流動の創造と地域の活性化に取り組んでいます。
- 当社が提案する「のってたのしい列車」のパイオニアとして好評運行中の「リゾートしらかみ」の「樺(ブナ)」編成(キハ40系)の後継車両として、新型車両(HB-E300系:ディーゼルハイブリッド車両)を製作します。
- 車両は1編成(4両)製作し、2016年7月～9月に実施される「青森県・函館 destinations キャンペーン」にあわせて営業運転を開始し、地域の活性化、地方創生に取り組んでまいります。

1. デザインコンセプト

白神山地と日本海に囲まれた沿線の美しい大自然、移ろい行く季節感、どこか神聖で神々しい空気感を「緑豊かな樺(ブナ)の葉とそこから溢れ出る優しい木漏れ日」で表現したデザインとします。



(外観イメージ)

※デザインは「KEN OKUYAMA DESIGN
(代表:奥山清行氏)」が担当します。

2. ディーゼルハイブリッド車の特徴(別紙)

- ・燃料消費量を低減する他、排気ガス中の有害物質である窒素酸化物(NOx)と粒子状物質(PM)の排出量を約6割低減しています。
- ・車内照明にはLEDを採用し、従来の蛍光灯の約6割の消費電力量としています。

3. 運用区間

奥羽本線・五能線（秋田～東能代～川部～弘前・青森）

4. 「リゾートしらかみ」の概要

1997年4月1日に秋田新幹線の開業に合わせ登場し、多くのお客さまと沿線の皆さまに支えられ、現在は年間10万人を超えるお客さまにご利用いただいています。

新たにデビューする「樺(ブナ)」編成では、地元の皆様と連携し、五能線沿線を満喫いただける新しい車内サービスをご提供する予定です。

- ・1997年 4月 「リゾートしらかみ」デビュー
- ・1999年 4月 沿線の観光メニューをお楽しみいただく「蜃気楼ダイヤ」を実施
- ・2003年 4月 「樺(ブナ)」編成デビュー※初代編成を「青池」編成とし、2編成で運転開始
- ・2006年 3月 「くまげら」編成デビュー 3編成での運転を開始
- ・2010年12月 「青池」編成ハイブリッド車を導入
- ・2011年10月 ご乗車人員100万人達成(2014年度末現在134万人)

リゾートしらかみ「樺(ブナ)」車両新造の概要

～HB-E300系ディーゼルハイブリッド車両～

< 外観・内装コンセプト >

エクステリア

- ・「樺(ブナ)」の木立をグラデーションで表現し、ナチュラルなグリーンの濃淡で優しい木漏れ日を感じさせるデザインとします。

インテリア

- ・雄大な白神山地や夕陽の沈む日本海などの美しい風景を車内から楽しめる開放感のある空間、窓とします。
- ・沿線のシンボルである樺や杉などの木材を取り入れ、温かみと安らぎを演出する内装とします。
- ・BOX席は2タイプで、さまざまな旅行スタイルに対応します。また、新たに設置するフードカウンターでは沿線の「食」も提供します。



室内イメージ(フードカウンター)

< 主な特徴 >



(外観イメージ)

編 成	4両編成(4M)
定 員	約140名
車体寸法	20.6m(全長)×2.92m(全幅)×3.62m(全高) 軽量ステンレス構体
側出入口	片側1扉
最高運転速度	100km/h
制御方式	コンバータ+VVVF制御
室 内	先頭車両にイベントスペース、中間車両に新たなソファタイプBOX席及びフードカウンター - 設置 LED照明

1 ディーゼルハイブリッドシステムとは、車両の状況に応じて、ディーゼルエンジン発電機と蓄電池という2種類の動力源を、単独あるいは組合せて走行に必要な動力を発生させるシステムです。

2 ディーゼルハイブリッド車両は、2007年に当社で初めて小海線にキハE200形車両を導入し、その後、2010年に盛岡地区・秋田地区・長野地区向けにHB-E300系車両を導入しております。また、2015年には仙石東北ライン向けにHB-E210系車両を新造しております。